

## 2013年バンコク宣言の紹介 プラ・プロムバンディット会長



尊敬するサンガの皆さん、優れた代表団の皆様、そしてダルマの下の友人の皆様。

2013年の第10回国際ウェーサクの日祝賀式典は非常に短いものでした。時間があっという間に過ぎてしまいました。今回の会議は二日間行われました。この二日間の間、私たちは一緒に効率的に時間を使いました。これらの二日間、私たちは献身的に、懸命に働きました。そして満足いく結果を得ることができました。

共通仏典 CBT 委員会や仏教経典統一カタログ UCVT 委員会などから、話し合いの結果について報告が届いております。これらの委員会の学者の皆様方は、バンコクにお越しになるずっと以前から懸命に活動をされてきました。お互いに連絡を取り合い、その仕事を調整されてきました。

タイ国政府もまた、私たちの活動に期待しております。タイ国政府は、タイ国仏教局に（世界仏教センターの設立について）私たち仏教指導者に助言を求めるとお命じになり、この式典が始まる一日前には、世界仏教センターの青写真作成への助力を世界中の仏教指導者たちに要請されました。（この要請に従い）私たちはタイ国政府に勧告と提案を行いました。私たちは、この式典に先立ってこのような活動もやり遂げました。

それからこの国連会議センターでの式典となりました。私たちは昨日式典をスタートさせましたが、その冒頭で、タイ国大僧正の代理としてソムデッド・プラ・マハラチャマンカラチャーン聖下のご臨席を賜り、私たちみんなを祝福していただきました。それからスリラスム王女殿下が開会式を主宰されました。また、猊下閣下や法王閣下や仏教指導者の皆様からの様々のありがたいお言葉を演壇で語っていただきました。私たちは二つのパネルディスカッションで、パネリストたちのお考えもうかがいました。様々な考えが示され意見が交換されました。

バンコク宣言起草委員会がバンコク宣言の草案を作成しました。それから、それは、この会議に出席されている仏教指導者の皆様と学者の皆様によって承認され署名されました。

ダルマの下の友人の皆様、私たちの会議の具体的な成果である 2013 年バンコク宣言を皆様方にお伝えしたいと思います。それでは、バンコク宣言の本文を読ませていただきます。

1999年12月15日、34カ国の代表者たちが国連総会に、5月の満月の日が国連ウェーサクの日として承認され国連本部及び国連の地域事務所において祝賀されるように、という提議を行った。国連総会は提議通りに決議を行い、その決議に従って、国連ウェーサクの日が全ての仏教部派の支持を受けて2000年に制定された。この決議に従い、87の国と地域からの参加者が、2013年(仏暦2556年)5月21日、22日に、ブッダの生誕、成道そして涅槃を祝うために集まった。これまでと同じように、今回の祝賀式も、タイ国最高サンガ評議会の指導の下で、マハチュラロンコーン・ビジャウィタヤライ大学が寛大な心で組織・運営を行い、そしてありがたいことにタイ王国政府の支援をいただいた。

バンコクにある国連アジア太平洋経済社会委員会（UNESCAP）会議センターにおいてそしてノン・パトム県にあるブッダモンthonにおいての祝賀の間、集まった私たちは「教育と国際社会の一員：仏教的展望」というテーマを探求した。そして、すべての仏教部派から参加した様々な組織や人たちが

の間の相互理解と協力を推進した。祝賀式と会議を成功裏に終えるにあたって、私たちは全員一致で次のように決議した。

1. タイ国大僧正ソムデット・プラ・ニャナサンバラ聖下の 100 歳の誕生日という慶事にあたり、特に教育、精神性そして保健衛生の分野において人々の人としての生き方を高めるために聖下が成し遂げられた功績に対して聖下を称え賞賛すること。

2. 「すべての人に普遍初等教育およびそれ以上の教育を行う」という国連のミレニアム開発目標を実現するために 21 世紀における普遍教育に向かってたゆまぬ努力をすること。その努力を行うに当たって、智慧と慈悲の心をもって、環境に対して配慮を行い、学校の科目と鍛錬との間の相乗効果を高めること。そして、経済的社会的発展のための技術の獲得を目的にした現在の取り組みに対して、智慧と慈悲の心をもって、すべてのレベルの教育の教育課程と授業計画の中に倫理と共同体意識を組み込むこと。

3. 仏教界の指導者達は今、持続可能な世界平和に向かって、社会的人道的開発の推進と共に教育の推進を実践しているが、その崇高な使命をさらに強化していくように彼らを励ますこと。

4. 人間の尊厳を高くかかげることを通して文化的宗教的調和と寛容を維持するという私達の決意を再確認し、これまで以上に強い確信を持って仏教の非暴力の道を強化して、平和的な共存に至る道にある数多くの課題に真正面から立ち向かうこと。

5. ウェーサクの日の集まりという機会をとらえて、すべての人間が一つの地球家族として相互に結びついており自分達の行動の結果をお互いに共有しているという事実の上に立って、今まで以上に先見の明を持ってブッダの数ある教えの中心をなしている平和を推進していくように、そして特に、ブッダの智慧を広めていくように仏教徒を励ますこと。

6. すべての政府組織、および、非政府組織に対して、経済的社会的開発と環境保全とのバランスを取る必要があることを強調し、持続可能な経済的社会的開発を目指して努力するように強く要請すること。

7. 人間は相互依存の存在であるというメッセージを広げていく努力を強化し、様々な個人や組織が仕事で重要な問題と一緒に取り組むときに、地球に共に住むものであるというものの見方を発展させていくように励ますこと。

8. 保健衛生、教育、管理・運営、そして、地域社会の開発などの分野において、マインドフルネスの倫理面での効用を普遍的に応用しうる方法で広めていくこと。

9. ウェーサクの日国際評議会によって培われてきた多様な仏教界を一つにまとめ上げていく力によって、ASEAN 共同体という目標を 2015 年に達成することに向かって最大限の貢献を行っていくこと。

友人の皆様方、以上が仏教指導者の方々によって承認され署名されたバンコク宣言です。これは起草委員会によって準備されました。皆様どうぞ大きな拍手で感謝の気持ちをお伝えください。

ウェーサクの祝賀式典の終わりにあたって、この式典を成功させた偉大な人々に感謝とお礼の気持ちを表明したいと思います。先ほど申し上げましたように、開会式を主宰して下さったことに対してスリラスム王女殿下に感謝を申し上げます。また、私たちが祝福して下さるとともについ先ほど閉会式を主宰してくださいましたソムデット・プラ・マハラチャマンカラチャーン聖下に感謝いたしたい

と思います。

基調演説をして下さったタイ国副首相兼教育大臣ポンテップ・テップカンジャン閣下に感謝を申し上げます。もちろんミャンマー連邦共和国の副大統領サイ・マウ・カン博士にも演説して下さいたことに対し感謝いたしております。

タイ国最高サンガ評議会とタイ王国政府は、全面的に支援をして下さいました。心より感謝いたしております。

組織・運営委員会に対して、特に献身的に身を粉にして働いてこのウェーサク式典を成功に導いてくれたマハチュラロンコン大学の私の同僚たちにも感謝の意を表したいと思います。どうぞ皆さん、盛大な拍手をお願いいたします。

ウェーサクの日国際評議会 ICDV の実行委員会は、運営委員会と起草委員会と共に、様々な会議を準備し、それらの会議を円滑につないで下さいました。どうぞ彼らにも盛大な拍手をお願いいたします。

最後になりましたが、私たちがここにこのように集まっていることができるのは、ひとえに国連アジア太平洋経済社会委員会 UNESCAP 事務局長のノエレーン・ヘイザー閣下と彼女のチームの寛大なお計らいのおかげです。どうぞもう一度、皆様の拍手をお願いしたいと思います。

今から行われることがある、というメモが届きました。ビデオの上映です。ですから私は、参加されておられる皆様方に対する私の感謝の表明をここで終えたいと思います。

皆様方の協力、貢献、参加、思慮がなければ私たちのこの会合はただ単なる儀式となってしまったことでしょう。しかし、私たちは、私たちが今このように生きていることの重要性を示すことができました。仏教徒であるということは、私たちはブッダの智慧の道に従って歩む、ということの意味しています。私たちは仏教の心でお祝いをします。私たちはどの程度のことを知っているかを示すだけでなく、私たちは知識を超えて智慧へと向かっていきます。

私たちは、知識と智慧との間の違いは何なのか、という問題を提起しました。討論から出てきたそれに対する答えは、次のようなものでした。知識はパーリ語ではスッタといい、智慧はパンニャといいます。スッタすなわち知識というものは、情報に、また、情報を解釈するあなたの経験に基づいています。あなたは、あなたの経験と情報を使って行動します。それが知識です。情報がなければ、あなたは知識を持っている、と称することはできません。

智慧は単に情報を集めたものではありません。それは情報を越えて、物事の本質へと向かいます。それゆえ、智慧すなわちパンニャは、物事の真の本質を洞察すること、と言われます。物事の真の本質とは、皆さんがよくお分かりのように、極めて長い時間の中ではどのようなものも変化し、最後には無に帰する、ということです。無とは、実体はない、ということです。生まれ出るときは、どのようなものであっても、何かに依存し何かのおかげで生まれ出てくるのですから、あらゆるものは必然的に関係している、相互に関係しあっているのです。私たちは世界が相互に結びついているのを見ます。生まれ出るときから何かに依存しているのです。私たちは私たちだけで何かを乗り越えていくことはできません。パンニャというものが必要なのです。パンニャは世界を一つの全体として見ます。私たちは自然環境に結び付けられています。他の存在に結び付けられています。相互に関係しあっている存在なのです。このように世界を見るパンニャ、智慧からは、おのずと親愛の情と慈悲の心が生まれ出てきます。

このことを私は私たちの討論と意見の交換から心に深く刻み込みました。私はこれからもどんどん

先へと進んでいくことができます。私は皆様方からたくさんのことを学んだのです。私は、より智慧のあるものとして自分の寺に戻ります。これは皆様方も同じことでありましょう。

このような洞察を私に与えてくださったことに対し、皆様方全てに私は個人的に感謝を申し上げます。この集まりがなければ、私はこれまでと全く同じであったことでしょう。皆様方が私と同じような経験をなさったことを望んでおります。

私は、皆様のお考えを、全ての指導者の皆様のお考えに喜んで耳を傾けておりました。ただ耳を傾けておりました。ただ会議を運営するだけではありませんでした。そうすべきだった、そうする方が良かったのかもしれませんが。

しかし、皆様ご存知のように、私たちは、仏教の信者として随分と瞑想をいたします。私たちは、私たちの使命を瞑想します。私たちは、活動し、人々の役に立つことを楽しみます。私たちは、困難の中にあっても、微笑みます。限界の中にあっても、微笑みます。

そして、私たちは進み続けることを決意します。進み続けてまた一緒に会うのがここになるのか、それとも別の場所になるかは、2014年のこの式典の開催地として選ばれることを志願するところによります。実際、いくつかの国から提案がありました。しかし私たちのガイドラインに従って、私たちはそれらの提案を詳しく検討していかねばなりません。ですから、国連ウェーサクの日国際委員会 ICDV の実行委員会が来年の式典の開催地を決定するのを待つことといたしましょう。私たちは ICDV の実行委員会に、会議の招集を、そして来年の式典の日時を決定するのをお任せいたします。このような次第で、来年の式典の日時を今日発表することはできません。どうぞしばらくお待ちください。

もうそろそろ次の準備ができたようです。出発する時間となりました。この閉会式の後、皆様はナコン・パトム・ブッタモンthonにある世界仏教センターと一緒に行っていただき、タイ国国王陛下のために、そしてタイ国大僧正の100歳の誕生日を祝って、タイ国のおよそ一万人の仏教僧たちと一緒に国際的なお経の朗唱に参加していただきたいと思います。

皆様方、お別れの時間となりました。来年のウェーサクの式典で再び皆様にお会いできますことを楽しみにしております。それでは皆様方、どうも本当にありがとうございました。